

大学院 応用統計解析 グループワーク課題

テーマ:「社会人の大学院(経済・経営系)進学要因に関する調査」

ここ数年、大学院は大学教員や学術研究者の再生産機関としての役割から、広く社会に開かれた専門的職業人のための再教育機関としての役割へと変貌を遂げようとしている。一方、社会人もリストラクチュアリングの波の中で、企業に任せっぱなしになっていた職業教育を、自ら積極的に行なうようになり、海外ビジネススクールへの留学や、国内の大学院や専門学校に通う社会人も珍しくなくなっている。これら、大学院に進学する社会人の数は確実に増加しているものの、彼らがどのような要因で進学を決定したかについては、必ずしも明らかになっていない。そこで、本調査では「何故社会人が大学院進学を目指すのかについて」解明することにしたい。

学校(大学等)進学の理論モデルとしては、 人的資本理論(投資) シグナリング(スクリーニング)理論、 (社会)階層移動論、などがある。

課題 ~ のうち、各グループに割当てられた理論モデルに基づいて、大学院進学の要因(動機)についての質問を20問程度作成しなさい。また、進学動機の尺度をどのように構成すれば良いか、提案しなさい。

(提出期限 7月4日)

【参考文献】

- 荒井 一博(1995), 『教育の経済学:大学進学行動の分析』,有斐閣
- 竹内 洋(1995), 『日本のメリトクラシー:構造と心性』, 東京大学出版会
- 近藤 博之 編(2000), 『戦後日本の教育社会(日本の階層システム3)』, 東京大学出版会

【理論モデルの割当】

- モデル Group-2: 西願, 吉本, Islam, 金(M1)
- モデル Group-3: 柿澤, 河野(M1), 小島(M2), Joel(D1)
- モデル Group-1: 呉(M1), 久米, 立花, 万(M2)